

高等学校商業科採点基準

3枚のうち1

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号		正 答 〔例〕	採 点 上 の 注 意	配 点
1	1	インターネットを介して、アイデアや事業を公開し、それに賛同した不特定多数の人から資金を募る仕組みである。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	7
	2	プライベート・ブランド商品とは、小売業者等が独自に企画・開発して販売する商品のことである。これに対して、ナショナル・ブランド商品とは、メーカーが企画・開発・製造し、小売業を通して販売する商品のことである。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	7
	3	販売データを基に売れ筋商品を把握し、仕入れや品揃えの改善に活用している。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	7
	4	(1) 556,000 [円]		5
		(2) 91,812 [円]		5
2	1	① 法規		各 3 × 4
		② 経営判断		
		③ 会計基準		
		④ 活用		
	2	企業における情報の管理と活用に関する具体的な事例について多面的・多角的に分析し、考察や討論を行う学習活動を通して、情報を扱う者としての役割と責任について理解を深めることができるようにすること。 情報技術の進歩に留意して指導すること。また、表現の方法や伝え方などの工夫について考察や討論を行う学習活動及び企業において情報を扱う具体的な場面を想定した実習を通して、情報を適切に扱うことができるようにすること。	順序は問わない。 内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	各 4 × 2
3	1	商品開発や消費者の購買行動を考える際に設定する自社の顧客のモデル像のことで、年齢、性別、職業、居住地、趣味などが具体的に設定されている。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	7
	2	将来において、ある価格で特定の資産を買う（売る）権利を売買する取引のこと。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	7
	3	企業は事業活動を行う上で、企業倫理を確立し、法令遵守（コンプライアンス）を徹底するとともに、地域社会の課題解決に貢献することが求められている。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	7
	4	○次の点について書いていること。 ・リピーターが増加するためのアイデア ・他店の商品の差別化 ・商品の広告宣伝に関するアイデア	問いを正しく捉えていれば、内容は異なってもよい。	1 5

高等学校商業科採点基準

3枚のうち2

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号		正 答 〔例〕		採 点 上 の 注 意	配 点																				
4	1	(1)	ス		各 5 × 5																				
		(2)	ア																						
		(3)	イ																						
		(4)	コ																						
		(5)	キ																						
	2	(1)	title	内容を正しく捉えていれ ば、表現は異なっているもよ い。	各 2 × 6																				
		(2)	br																						
		(3)	hr																						
		(4)	table																						
		(5)	img																						
(6)		href																							
3	11111010			5																					
4	60 [秒]			5																					
5	1	(1)	<table><tr><th colspan="2">借 方</th><th colspan="2">貸 方</th></tr><tr><th>勘定科目</th><th>金額</th><th>勘定科目</th><th>金額</th></tr><tr><td>備品減価償却累計額</td><td>350,000</td><td>備 品</td><td>800,000</td></tr><tr><td>未 収 入 金</td><td>400,000</td><td></td><td></td></tr><tr><td>固定資産売却損</td><td>50,000</td><td></td><td></td></tr></table>	借 方		貸 方		勘定科目	金額	勘定科目	金額	備品減価償却累計額	350,000	備 品	800,000	未 収 入 金	400,000			固定資産売却損	50,000				6
		借 方		貸 方																					
		勘定科目	金額	勘定科目	金額																				
		備品減価償却累計額	350,000	備 品	800,000																				
	未 収 入 金	400,000																							
固定資産売却損	50,000																								
(2)	<table><tr><th colspan="2">借 方</th><th colspan="2">貸 方</th></tr><tr><th>勘定科目</th><th>金額</th><th>勘定科目</th><th>金額</th></tr><tr><td>電子記録債権</td><td>500,000</td><td>売 掛 金</td><td>500,000</td></tr></table>	借 方		貸 方		勘定科目	金額	勘定科目	金額	電子記録債権	500,000	売 掛 金	500,000		6										
借 方		貸 方																							
勘定科目	金額	勘定科目	金額																						
電子記録債権	500,000	売 掛 金	500,000																						
(3)	<table><tr><th colspan="2">借 方</th><th colspan="2">貸 方</th></tr><tr><th>勘定科目</th><th>金額</th><th>勘定科目</th><th>金額</th></tr><tr><td>繰越利益剰余金</td><td>4,940,000</td><td>利 益 準 備 金</td><td>140,000</td></tr><tr><td></td><td></td><td>未 払 配 当 金</td><td>1,600,000</td></tr><tr><td></td><td></td><td>別 途 積 立 金</td><td>3,200,000</td></tr></table>	借 方		貸 方		勘定科目	金額	勘定科目	金額	繰越利益剰余金	4,940,000	利 益 準 備 金	140,000			未 払 配 当 金	1,600,000			別 途 積 立 金	3,200,000		6		
借 方		貸 方																							
勘定科目	金額	勘定科目	金額																						
繰越利益剰余金	4,940,000	利 益 準 備 金	140,000																						
		未 払 配 当 金	1,600,000																						
		別 途 積 立 金	3,200,000																						
(4)	<table><tr><th colspan="2">借 方</th><th colspan="2">貸 方</th></tr><tr><th>勘定科目</th><th>金額</th><th>勘定科目</th><th>金額</th></tr><tr><td>前 受 金</td><td>260,000</td><td>役 務 収 益</td><td>260,000</td></tr><tr><td>役 務 原 価</td><td>130,000</td><td>仕 掛 品</td><td>130,000</td></tr></table>	借 方		貸 方		勘定科目	金額	勘定科目	金額	前 受 金	260,000	役 務 収 益	260,000	役 務 原 価	130,000	仕 掛 品	130,000		6						
借 方		貸 方																							
勘定科目	金額	勘定科目	金額																						
前 受 金	260,000	役 務 収 益	260,000																						
役 務 原 価	130,000	仕 掛 品	130,000																						

高等学校商業科採点基準

3枚のうち3

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

【注意】問題によっては、部分点を与える。

問題番号		正 答 〔例〕		採 点 上 の 注 意		配 点	
5	2	(1)	240,000 [円]			各 6 × 3	
		(2)	315,000 [円]				
		(3)	1,815,000 [円]				
6		場 所 的 隔 た り	資料Ⅱを活用して、生産地（北海道）から九州（1月：6,414t）や近畿（1月：8,906t）といった遠方の主要消費地域まで、毎月大量のたまねぎが届いている実績値に注目させる。その際、「なぜ遠く離れた私たちの地域のスーパーに、北海道産のたまねぎが並んでいるのか。」という発問を行い、生産地と消費地の物理的な距離である「場所的隔たり」を輸送機能が解消していることに気付かせる。	問いを正しく捉えていれば、内容は異なっていてよい。		各 8 × 3	24
		時 間 的 隔 た り	資料Ⅱと資料Ⅲを活用して、たまねぎの収穫時期が8月～10月に集中している点と、卸売市場には1月から12月まで通年で供給されている点に注目させる。その際、「収穫が行われていない冬や春に、なぜ大量のたまねぎが出荷できるのか。」という発問を行い、収穫時期と出荷時期に差がある「時間的隔たり」を倉庫での保管機能が解消していることに気付かせる。				
		人 的 隔 た り	資料Ⅳを活用して、生産者から卸売業者・小売業者を経て消費者へと商品が渡ること注目させる。その際、「消費者がお店でたまねぎの代金を支払うまでにたまねぎの所有権はどのように変わっているか。」という発問を行い、生産者と消費者が別人である場合に生じる「人的隔たり」を売買取引が解消していることに気付かせる。				